

暮らしサポート隊 仮設住宅コミュニティ班 福島県いわき市編(8月5,6日の行程)

【5日】

- 福島県の避難者住宅対策について
- いわきNT内の木造仮設の見学

福島大学 丹波史紀准教授、福島県土木部佐々木次長他

【6日】

- パオの贈呈式
- いわき地区NPOネットワーク会議参加

木口利男さん(パオ寄贈者)、小林郁雄さん
長谷川洋さん(国土技術政策総合研究所)

福島県の避難住民に係わる住宅対策について

住宅対策の目標戸数

種別	従来目標戸数	新たな目標戸数	増減戸数
① 応急仮設住宅	24,000戸	16,000戸	-8,000戸
② 民間住宅の借り上げ	10,000戸	18,000戸	+8,000戸
③ 公営住宅空家	1,000戸	1,000戸	0戸
合計	35,000戸	35,000戸	0戸

資料出典: 福島県総合対策本部2011.7.15

- ➡ ○プレハブ建築協会は約1万戸供給可能⇒5千戸を地元事業者に公募
- 第一次公募(4千戸)は23事業者33提案があり、約64%(21)が木造提案
- 12事業者が選定。11事業者が木造仮設

【評価項目】

- ① 確実な住宅供給能力と体制
- ② 適正な販売価格又はリース契約価格
- ③ 供給住宅の性能及び品質(型数、環境への配慮、再利用可能性)
- ④ 県内企業の活用状況
- ⑤ 震災被災者の雇用状況
- ⑥ 県産材の活用状況
- ⑦ モデル団地提案における配慮事項(住戸配置、バリアフリー、コミュニティ環境)

株式会社エコ・ビジレッジ 設計施工



筑波大学 安藤邦広教授 監修設計
福島県建設業協会 施工



パオの贈呈式 2011.08.06 in いわき自立生活センター



いわきNT内の仮設住宅の状況



- 本格入居は、まだ始まっていない。
(高齢者や障害者など、集団避難生活が難しい人のみ入居している模様)
- 10箇所以上の集会所の内、土曜日の昼間に利用されていたのは1箇所のみ。

いわき地区NPOネットワーク会議

- ◆いわき地区の**24団体ネットワーク組織**
- ◆年に数回行っていた会議を震災後は、月に1回開催し、互いの情報交換を行っている。
- ◆パオを寄贈された「いわき自立生活センター」の提案により、パオを活用した「**中央台仮設住宅生活支援センター**」を本ネットワークで運営することが7月の会議で決定
- ◆「仮設住宅生活支援センター運営部会」と「**仮設住宅コミュニティ形成運営部会**」を設置することに。
- ◆支援センターは**6団体**(いわきNPOセンター、いわき自立生活センター、ザ・ピープル、いわきFPe-ライフ等)で運営会議を1週間に1度程度、開催していくことが決定する。

